広報たはら

Tahara

田原市ホームページ http://www.city.tahara.aichi.jp

2016
平成28年
2.15

笑顔の花も咲かせたい！

目次

「しみんの広場」 2
中学生職場体験
今月の花「レイコのコレイいね」
地域の話題
スクールリポート
学校生活の一コマを紹介 6
たはらシティニュース 7
連載コーナー 8
おしらせ 10
渥美郡三町の時代 12

しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

●職場体験……2ページ
●ラストロット・今月の花……3ページ
●地域の話題（田原東部校区）……4ページ
●市民活動を応援するページ……5ページ

大使発！

広報サポーターだより

中学生職場体験

市内の中学2年生が参加している職場体験。今回は、赤羽根中学校と田原中学校の職場体験を取材してきました。

広報サポーター
大久保ゆり

職場体験とは、「あいち出会いと体験の道場」の一環として、市内の中学2年生が、商店や事業所などで実習をするものです。美容室や病院、公共施設などさまざまな職場を、自分の将来の夢を踏まえて選択し、体験することができます。

赤羽根中学校の鋤柄光輝君は、自動車販売店にてタイヤ整備の練習をしていました。車の点検をするところが見たくて自動車販売店を希望しました。

●車の整備をする鋤柄君

「ブレーキやワイパーの点検をするところを見せてもらい、日々の点検は大切だなと思いました。僕は話すのが苦手だけど、分からないことは、自分から聞かなければいけないということを働いてみて感じました」と熱心に作業を続けていました。

田原中学校の村上ちひろさんは牛舎にて獣医の仕事の一つである牛の健康観察をしていました。

●牛の健康観察をする村上さん

「実習をして獣医になりたいという思いがさらに強くなりました。牛の手術に立ち会い、開腹したところに手を入れた時の感触は忘れられません」と白衣姿で熱く語ってくれました。

保育園でおやつの準備をしていた田原中学校の宮下流祈君は、「保育士の仕事は意外と重労働でした。園児たちに伝えたり注意したりするのは大変なことです」と話しながらも、ずっと園児たちに囲まれてうれしそうでした。

●園児と遊ぶ宮下君

飲食店を希望して、うどん店に来た赤羽根中学校の鈴木星奈さんと鈴木英起君は、ご飯を同じ重さによそったり、食器を協力して洗ったりしました。

●園児のお茶を用意する宮下君

星奈さんは「ご飯を同じ重さでよそうのは、思っていたよりも難しかったです」と感想を教えてくれました。英起君は「人と関わることが得意ではないので自分からコミュニケーションをとろうと思います」と決意を語っていました。

●お皿を洗う鈴木さんと鈴木君

田原中学校の八木先生は、「体験を通して今の自分を知り、人とコミュニケーションをとる力を養ってほしい。そして大人になった時に、自分でその時々の状況を判断できる人になってほしい」と生徒に期待を寄せていました。

今回、緊張して疲れたという声も聞き、働くことの大変さをそれぞれ感じたことでしょう。その大変さの中から働く喜びを少しでも感じることができたら、将来自分がどんな仕事につきたいか考えるきっかけになると思います。

たくさんの思いが膨らみ、若い芽吹きが将来、花咲くことを願っています。

市民発!

夢の舞台 日本ガイシホールで演奏

投稿 Last Lot(ラストロット)

私たち、田原市の4人組バンド「Last Lot(ラストロット)」は、1月11日に名古屋市南区の日本ガイシホールにて、大勢の観客の前で演奏する機会をいただきました。

名古屋市中区のホールで平成27年11月19日に開催された「オトナ・バンドフェス」で優勝し、歌手の南こうせつさんや森山良子さんらが出演する「青春のグラフティコンサート」の前座で演奏する権利を獲得し、夢の日本ガイシホールで演奏することになりました。

「Last Lot」は、田原市在住の4人、リーダーでドラムの鈴木登士勝、ボーカルとギターの三浦克之、ベースの川口裕也、ギターの黒田寛三で構成しているバンドです。メンバーそれぞれが、仕事や家庭を抱えて忙しく、解散の危機もありました。それでも、地元の祭りやイベントのステージ演奏で地域を元気づけるために活動してきました。

そんな折、優勝がきっかけで手に入れた夢の舞台での演奏。メンバーは、仕事を終え、子どもを寝かしつけた午後9時から練習に明け暮れました。

お客さんは、いつもの100倍以上です。高校時代、観客席からみたエリック・クラプトンと同じ舞台に立つなんて信じられないと、舞台前は興奮していました。

迎えた当日。あれだけ大きなホールにお客さんが満席の中、自分たちの音楽が流れていることが夢のようで、感動しっぱなしでした。ステージ後、出演者の方々ともお話させていただく貴重な時間を持つこともできました。

この経験を生かし、自分たちの音楽を通じて、大好きな渥美半島を世界に配信していけるよう活動していきたいと思っています。

●日本ガイシホールで演奏するメンバー

今月の花 レイコのコレいいね 20

▶農政課 ☎23局3517

◉きれいな花を長期間楽しむために

気温が低い冬は、花が傷みにくいので長期間楽しむのに絶好の季節です。さらに日持ちをよくするためには、数日おきに切り口を切り、水を換えるだけで長持ちします。2月の花・ガーベラは、水に浸かっている部分が傷んでくるので、少量の水で飾って傷んできたところを切り落としていけば、長期間楽しむことができます。

また、園芸用品店などで切り花の鮮度保持剤などを販売しています。これらのポイントを踏まえて、みなさんもきれいな花を長期間楽しんでください。

2月の 渥美半島の花と鉢花

ガーベラ

(花／出荷時期:通年)

花ことば: 神秘、崇高美

フラワーアレンジによく使われ、県内1位の生産量、約580万本出荷されています。

ラナンキュラス

(鉢花／出荷時期:1月～3月)

花ことば: とても魅力的

花びらが幾重にも重なった姿が美しい花で、約7万鉢出荷されています。

▲車に気を付けていってらっしゃい!

▲子どもの安全を見守ります

地域の話題

田原東部校区

地域住民全員で進める活気あるまちづくり

さまざまな活動や行事などを通じ、安心で思いやりのあるまちづくりを目指している田原東部コミュニティ協議会からお便りが届きました。

地域発!

田原東部校区は、田原市の東部、豊橋市杉山町との市境界に位置する地域で5つの自治会で構成されています。校区では住みよい安心なまちづくりを目指し、自治会活動やボランティアなど、さまざまな活動が行われています。

ボランティアによる見守り活動

田原キッズパトロール田原東部方面隊は平成16年に発足。以来10年以上にわたって、毎朝、登校する児童を交差点や横断歩道での見守り、下校時の付き添いや校区内の危険個所などの確認をする安全パトロールなどを実施しています。

毎朝の見守りには、地区住民の皆さんも参加。子どもたちが安心して登校できるようにやさしい目を向けています。

このように、校区ではボランティアなどと一緒に地域全体で交通安全や犯罪防止に取り組んでいます。

市と協働でまちづくりを地域懇談会の開催

平成27年11月11日、地域懇談会を田原東部市民館で開催しました。

これは校区が抱えているさまざまな課題について田原市に知ってもらい、今後のまちづくりを協働で進めていこうというものです。

●地域懇談会の様子

懇談会には、市長、副市長、教育長、関係部長が出席し、コミュニティ協議会役員、地域の代表、市議会議員など約50名の方が集まり、市側と意見を交わしました。

意見交換の主な項目は次のとおりです。

- 人口が減り、高齢者が大変多くなっている状況がある一部地区での対策について
- 道路整備の現状と今後の見通し、道路の維持管理について
- 住宅開発や空き家利用について
- 高齢化の状況と対策について
- 小学校・保育園の統合について

ここで取り上げた活動などを通して安心で思いやりのある住みよいまちづくりを進めていきます。

市民活動を応援するページ

市民のチカラ

支援制度情報

平成28年度市民協働関連補助金募集スタート!

各種市民協働関連補助金の申請受付を２月２５日(木)から開始します。あなたの市民活動に、ぜひご活用ください。

※すべて平成29年２月末日までに完了する事業が対象

◉市民協働まちづくり事業補助金

市民活動団体による、地域づくり、清掃活動、福祉活動など、公共性および公益性の高い事業を支援します。

応募要件　市内で公益活動を行う５名以上で構成された団体

補助額		募集締め切り	選考方法
事業費10万円以上のもの	事業費の２分の１（上限20万円）	３月31日㈭	書類審査　公開審査会（４月14日㈭）※予算の範囲内で審査結果順
事業費10万円未満のもの	事業費の２分の１（5万円未満）	平成29年１月31日㈫※随時募集	書類審査　※予算の範囲内で先着順

◉新規団体活動補助金

設立２年未満の団体による、福祉、環境、まちづくりなどの活動で、市民感覚の柔軟なアイデアや発想のある事業を支援します。

応募要件　市内で公益活動を行う５名以上で構成された団体（設立２年未満）

補助額	募集締め切り	選考方法
事業費の全額（上限５万円）	平成29年１月31日㈫※随時募集	書類審査　※予算の範囲内で先着順

◉人材養成活動補助金

市民活動推進に有効な講座の受講料、交通費、受講に必要なテキスト代などを支援します。

応募要件　平成28年４月１日現在で田原市内の市民活動団体(５名以上で構成された団体)に所属している方

補助額	募集締め切り	選考方法
事業費の全額または一部（上限３万円）	平成29年１月31日㈫※随時募集	書類審査　※予算の範囲内で先着順

◉市民活動チャレンジ支援補助金

若者の市民活動団体による公益活動を支援します。

応募要件　市内で活動を行う青年層（おおむね18～40歳）５名以上で構成された団体

補助額	募集締め切り	選考方法
事業費の２分の１（上限10万円）	平成29年１月31日㈫※随時募集	書類審査　※予算の範囲内で先着順

申請方法　市民協働課、市民活動支援センターで配布する申請書類に必要事項を記入のうえ、直接または郵送にて提出（申請書類は市ホームページからもダウンロード可 HP http://www.city.tahara.aichi.jp/）

申 請 先　市民協働課または市民活動支援センター

そ の 他　平成28年度予算が確定するまでは、仮受付とします。／補助金の応募方法、申請書の書き方に関するご相談は、市民活動支援センターで随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

《平成27年度事業報告会》ー公開ー

今年度の補助金採択団体が、それぞれの活動報告を行います。補助申請の参考にもなりますので、ぜひお越しください。※申し込み不要／入退場自由

●日時：３月４日㈮午後７時～　●場所：田原文化会館201・202会議室

田原市民活動支援センター

HP http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/

☎22局1111(内線812)※開設時間のみ

FAX23局0180 ✉ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン配信中です！

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。

スクールリポート

SCHOOL REPORT 89
学校生活の一コマを紹介

今回は、小学校での「大草相撲」と「もち米の収穫」の様子をご紹介します。

●学校教育課☎23局3679

大草小学校　「大草相撲」

お相撲さんを招待して、相撲大会を開催

市内の小中学校で唯一「相撲場」のある大草小学校では、１年に３回、「相撲大会」を行っています。

５月の「春場所」は運動会の種目として、７月の「夏場所」は夏休み親子ふれあい集会の一環として、そして９月の「秋場所」は児童会活動の行事として、全校児童が参加します。

特に、「夏場所」では、毎年、相撲部屋のお相撲さんを招待して、基本を教えていただいたり、対戦したりして、相撲に親しんでいます。

本年度は、豊橋市出身で藤島部屋の藤大成（ふじたいせい）さんをお迎えして、「四股（しこ）」や「股割（またわ）り」などの基礎練習の一端を紹介していただきました。大きな体のお相撲さんが両脚をいっぱいに開き、上半身を地面につける股割りの様子を見て、体の柔らかさにびっくりしていました。

また、男子全員に四股名（しこな）があります。それぞれの対戦では、呼び出しに合わせて、「よっ、響丸（ひびきまる）」「よっ、波琉錦（はるにしき）」などと、大きな声援に後押しされて、真剣勝負に挑んでいます。

●１年生４人がかりで藤大成さんに挑戦

●５年生女子の取り組みの様子

若戸小学校　「もち米の収穫」

昔の人の知恵をたくさん学びました

●脱穀の様子

●唐箕を使って分別しました

若戸小学校では、５年生がもち米の収穫をしました。昨年度までは、全校で８a（アール）の田植えをしていました。しかし、お米とじっくり向き合おうと考え、地域の方のお世話になりながら、５年生が３aの広さで、もち米を田植えから稲刈りまで、機械に頼ることなく手がけました。

ジャンボタニシ取りはとても大変でした。夏休みには、稲刈りのための「すがいない」も行いました。最初は苦戦しましたが、すぐに慣れ、立派なすがいがたくさんできました。

刈り取った稲は、明治時代に使われていた「足踏み脱穀機」で脱穀しました。踏むタイミングが難しく、なかなか思うようにいきませんでした。もみは、「唐箕（とうみ）」を使って、重さによる分別を行い、天日干ししました。一升瓶と竹の棒を使って、もみすり体験もしました。青わらを保管し、しめ縄も作りました。これらの体験を通じ、昔の人の知恵をたくさん学んだ１年間でした。

「全校もちつき集会」でついたおもちは、最高においしかったです。このおもちを使ってＢ級グルメに挑戦していきます。他の学年も、「若戸の人・もの・こと」とかかわりながら、ふるさと学習を進め、成果を「ゆりのき学習発表会」で発表しました。「大好き！若戸っ子」が育つことを願っています。

Tahara City News
たはらシティニュース

1月

1月13日[水] 海の恵みをみんなで味わう！

ノリすき体験が福江小学校で行われ、5年生38名が参加しました。ノリ網を掛ける竹棒打ちから、網張り、収穫など一連の作業を行ってきた児童たち。慣れない作業に戸惑いながらも真剣にノリをすき、乾燥後には、全校児童で海の恵みを堪能しました。

▲細かく砕いたノリを木枠に入れ、ノリすきを行う児童たち

1月23日[土] 貴重な文化財を残していくために

文化財防火デーに合わせ、大日庵（高松町）で消防訓練が行われました。訓練は、「市指定文化財の大日如来坐像がある本堂西側の防風林から出火」を想定。参加した約40名は、住民の通報から消防隊員の消火まで一連の動作により、連携を確認しました。

▲放水訓練を行う消防隊員と消防団員

1月24日[日] 市民が主役！しみんのひろば！

しみんのひろばが田原文化会館文化ホールなどで開催され、約８００名の来場者でにぎわいました。市民提案型委託制度により、市民活動団体が受託し、企画・運営をしたこのイベント。市内の33団体が出展し、団体の活動をＰＲしました。

▲各ブースには、来場者が体験しながら団体の活動を知る工夫もなされました

ベジエール渥美の 野菜deしあわせ 5

ヨーロッパには「トマトが赤くなると医者が青くなる」ということわざがあります。

トマトの赤い色はリコピンという機能性成分。生活習慣病の原因となる活性酸素の働きを抑える強い抗酸化作用があり、ガンや動脈硬化、肥満の予防、美肌効果も期待できます。

生で食べることが多いトマトですが、油とともに加熱調理することで、リコピンやβ－カロテンの吸収率が高まり、うまみ成分であるグルタミン酸も引き出されます。生食時には牛乳と組み合わせると、牛乳の脂肪分がリコピンの吸収を高めてくれます。露地栽培では夏が旬ですが、ハウス栽培が盛んな田原市では、これからの寒い季節に味がのって、おいしくなります。

トマトソテー・大葉と塩昆布のせ【材料2人分】

●トマト2個●薄力粉適量●オリーブオイル大さじ3●塩昆布適量●大葉10枚【A】●昆布茶2つまみ●塩適量●粗挽きこしょう適量【レシピ作成　鈴木教広】

【つくり方】

①トマトはそれぞれ8個のくし形切りに、大葉は千切りにする。

②トマトの皮目以外に茶こしで薄力粉をふる。

③フライパンにオリーブオイルを入れ、中火で②の薄力粉が付いている面を焼く。両面をサッと焼いたら【A】をまんべんなくかける。

④③をオイルごと皿に盛り付け、塩昆布を散らす。大葉をのせて完成。

▼農政課
☎23局3517 FAX22局3817

キャベゾウ・かいくんの 渥美半島きらり☆ゆるさんぽ 10

渥美半島☆観光大使のキャベゾウとかいくんが、きらりっ！と光る田原市の観光資源をご紹介します。

今回は、2月から3月にかけてのイベントを紹介するカイ☆

★菜の花まつり

渥美半島では、1月上旬から市内で約1200万本の菜の花が咲き誇る菜の花まつりを開催しています。メイン会場である伊良湖菜の花ガーデンでは、菜の花の巨大迷路や芝滑りが楽しめます。

さらに、毎週末は、大あさりや野菜などの特産品販売のほか、子ども用のかわいい着ぐるみの貸し出しも行っています。

また、市内の飲食店では菜の花を使ったおいしい料理とスイーツを楽しむことができます。

★鳥羽vs伊良湖 勝つのはどっち？ Vol.2 五番勝負

昨年の対決で伊良湖が勝利を収めたため、今年も伊良湖で、3月6日（日）に開催されます。

今回のイベントは、五番勝負の対決となっており、すでに11月1日から料理対決が繰り広げられています。当日は、五番勝負の総決算。来年の開催地をかけてキャベゾウ、かいくん、鳥羽市のご当地バーガー「とばーがー」のキャラクターのトーバ、トパティも頑張ります。

盛りだくさんの渥美半島の春。楽しんでカイ☆

◎キャベゾウとかいくんのホームページもよろしくカイ☆
HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

▼商工観光課
☎23局3522 FAX22局3817

景観ってなぁに？ vol.11

▶街づくり推進課 ☎23局3535

◉美しい渥美半島を守り・つくり、次世代に！

この連載は、市民の皆さんが景観について知り、考えていただくことを目的に、団体や企業の景観まちづくりの取り組みなどをご紹介してきました。

例えば冬の風物詩となった三河田原駅前のイルミネーションですが、開始当時から範囲も広がり、幻想的な空間を演出しています。

また、福江市街地で行われている「福江＊つるし飾りロード」では、保育園児から高齢者まで幅広い世代が携わり、地域が一体となって景観づくりに取り組んでいます。

田原中部地区でも住民の皆さんが主体となり、地区の歴史を学んだり、景観に優れた地域を視察したりするなど、新たな景観まちづくりの検討が始まっています。

企業の取り組みとしてアイシン・エィ・ダブリュ㈱では、地域と連携し、光崎交差点の緑地帯でひまわりや菜の花を活用した景観づくりを行っています。

市では、今後もこうした活動を応援するとともに、美しい渥美半島を守り、つくり、次世代に引き継ぐための景観づくりに取り組んでいきます。

みんなで取り組む防災・減災

しろちゃんの防災知恵袋 23

防災セミナーを開催します

甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から間もなく5年を迎えます。田原市でも、南海トラフ地震への対策を進めているところですが、皆さんもご家庭や地域での地震への備えは万全でしょうか。

さて、2月28日(日)に渥美文化会館で防災セミナーを開催します。この機会にぜひご参加いただき、ご家庭や地域の防災対策の一助としてお役立てください。

◆防災セミナー講演会演題

巨大津波の脅威に負けない地域づくり～田原モデルの構築と発信を！～

◆講師

奥村与志弘（よしひろ）氏（京都大学大学院　助教）

- **日時** 2月28日（日）午後1時30分～3時45分（午後1時開場）
- **場所** 渥美文化会館　文化ホール
- **内容** 【防災講演会】午後1時30分～【田原市自主防災活動推進地区活動事例発表】午後3時15分～（若戸コミュニティ協議会、福江コミュニティ協議会）
- **定員** 700名（先着順）
- **入場料** 無料
- **申し込み** 不要
- **その他** 手話通訳あり。聴講された方には防災備蓄品を進呈します。

▼防災対策課☎23局3548

おしらせ
INFORMATION

表彰
AWARDS

農林水産統計業務協力者
農林水産大臣感謝状

農林水産統計調査に功績のあった河合博一（ひろかず）さん（和地町）に対し、統計の日（10月18日）を記念して、農林水産大臣感謝状が授与されました。

募集
WANTED

田原市博物館企画展監視員

田原市博物館（3月26日～5月15日）で開催する企画展の展示室監視員を募集します。

▼募集人員＝7名程度　▼勤務内容＝展示室監視　▼勤務形態＝午前9時～午後1時と午後1時～5時の交替勤務　▼賃金＝時給870円（3月中は850円）　▼選考方法＝応募者多数の場合は、書類選考後、面接（期日など詳細は後日通知）　▼申し込み＝3月6日（日）までに田原市博物館にある履歴書に必要事項を記入のうえ開館時間内に提出（郵送不可）　▼田原市博物館　☎22局1720 FAX22局2028

「サンテファーム」および「ふれあい農園」利用者

いずれも1区画20㎡（5m×4m）、利用期間は4月1日～平成29年3月31日、利用料は年額5000円です。

※申込者多数の場合は抽選

サンテファーム

▼場所＝田原市野田町芦ヶ池地内　▼区画数＝90区画　▼申し込み＝サンテパルクにある利用許可申請書に必要事項を記入のうえ提出　▼受付期間＝2月15日(月)～3月4日(金)　▼サンテパルクたはら　☎25局1234 FAX25局1235

田原市民ふれあい農園

▼場所＝田原市田原町北荒井地内　▼区画数＝50区画　▼申し込み＝農政課または営農支援課にある利用許可申請書に必要事項を記入のうえ提出　▼受付期間＝2月15日(月)～3月4日(金)　▼営農支援課（田原農業支援センター内）　☎22局1126 FAX22局1127

「博物館友の会」会員

平成28年度の「博物館友の会」会員を募集します。歴史・美術に関心を持つ方たちが参加するこの会は、田原市博物館事業の育成に協力し、会員の教養を高めるとともに、相互の親睦を深め、文化の向上を図ることを目的としています。

▼年会費＝1000円　▼特典＝博物館へ入館無料（要会員証提示）、博物館だより・崖山会報の送付、展覧会や博物館事業の情報提供、バス利用の見学会への参加　▼申し込み＝3月31日（木）までに田原市博物館にある申込用紙（田原市博物館ホームページからもダウンロード可）に必要事項を記入のうえ、年会費を添えて提出　▼その他＝現在会員の方も更新手続きが必要です。　▼田原市博物館　☎22局1720 FAX22局2028　HP http://www.taharamuseum.gr.jp/

生活
LIFE

行政書士による遺言に関する無料相談

▼日時＝3月4日（金）【前半】午後1時30分～3時【後半】午後3時～4時30分　▼場所＝豊橋市民センター「カリオンビル」（豊橋市松葉町2丁目63）　▼内容＝【前半】公証人による遺言ゼミナール（予約不要）【後半】行政書士による遺言の無料相談（要予約）　▼申し込み＝電話にて／受付は、平日の午前9時～正午・午後1時～3時　▼愛知県行政書士会東三支部（豊橋市新吉町28日伸ビル3階）　☎(0532)53局1963 FAX(0532)54局6224

田原市マルシェ

CBCハウジング名駅北にて田原市マルシェを開催します。

▼日時＝3月5日(土)午前10時～午後5時　▼場所＝CBCハウジング名駅北特設会場（名古屋市西区菊井1丁目23－18）※名古屋駅から徒歩20分　▼内容＝田原の旬な野菜や加工品など産地直送販売を行うほか、菜の花まつりのPR、田原市内若手農業者×料理研究家長田絢さんとのコラボ企画「田原野菜を使った料理体験教室」を開催します。

▼㈱サイエンス・クリエイト

☎(0532)44局1111　FAX(0532)44局1122

鳥羽伊良湖観光交流イベント「鳥羽VS伊良湖勝つのはどっち?」

田原市と鳥羽市による次年度の開催地をかけた対決の第2弾です。

▼日時＝3月6日(日)午前10時～午後4時　▼場所＝伊良湖港緑地公園（道の駅伊良湖クリスタルポルト東側）　▼内容＝鳥羽市の海女小屋体験や海女衣装貸出、大あさり（田原市）カキ（鳥羽市）の食べ比べ対決や特産品の販売、菜の花まつり会場とのスタンプラリーやステージイベント、もち投げなど。食べ比べ対決の参加方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。　▼主催＝渥美半島と鳥羽の若者が中心となって地元を盛り上げるためにがんばる実行委員会

▼商工観光課

☎23局3522　FAX22局3817

✉syoko@city.tahara.aichi.jp

HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

春季全国火災予防運動 3月1日(火)～7日(月)

これからの季節は寒さも和らぎ、火への注意も緩みがちになります。火災から命や財産を守るために、火の取り扱いには十分注意しましょう。

◉住宅防火7つのポイント

1. 寝たばこは、絶対にやめる。
2. ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使う。
3. ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
4. 逃げ遅れを防ぐために、消防法によりすべての住宅に設置が義務付けられている「住宅用火災警報器」を設置する。
5. 火災の拡大を防ぐために、寝具や衣類・カーテンなどは、防炎製品を使用する。
6. 火災を最小限に抑えるため、住宅用消火器などを設置する。
7. お年寄りや体の不自由な方を守るために、近所の協力体制を整えておく。

◉平成27年度防火標語

「無防備な　心に火災が　かくれんぼ」

▼消防課

☎23局4074　FAX23局0180

パブリックコメント 意見募集!

パブリックコメント手続制度に基づき、次の案件について意見を募集します。

より良いまちづくりのため、皆さんのご意見をお聞かせください。

▶意見募集期間＝3月1日(火)～3月30日(水)

田原市災害廃棄物処理計画の策定案

今後発生が予測される南海トラフ地震などの大規模災害に備え、災害時に発生する災害廃棄物を適正かつ迅速に処理するための、田原市災害廃棄物処理計画を策定しています。

担当課▶廃棄物対策課

☎23局3538　FAX23局0180

✉haikibutsu@city.tahara.aichi.jp

意見提出方法

①公表場所へ持参②郵便③ＦＡＸ④Ｅメール

住所、氏名、電話番号を明記のうえ提出してください。(個々のご意見には直接回答しません。)

計画案の公表場所

廃棄物対策課、市役所情報広場、赤羽根市民センター、渥美支所地域課、中央図書館、市ホームページ

HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

◆お詫びと訂正

広報たはら平成28年2月1日号に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

●3頁「特集渥美たくあん」

【正】昭和34年、伊勢湾台風

【誤】昭和32年、伊勢湾台風

●11頁「成人式」

【正】白井孝市氏、田原町長に初当選

【誤】白井孝市氏、田原市長に初当選

田原・赤羽根史現代編編集委員会

渥美郡三町の時代

郷土史編さん室 ☎36局6503

仰ぎ見る山から渥美半島を展望する山へ ～蔵王山の開発60年～

「かなたに蔵王仰ぎつつ…」田原東部小学校、「いやますかおり蔵王山…」田原中学校、「なつかしき衣笠蔵王…」成章高校。旧田原町内の小中学校、高等学校の校歌には蔵王山が数多く歌われています。渥美半島のシンボル的な山であり、標高250mの仰ぎ見る存在です。また、「信仰の山」であり、蔵王の名前の由来であるともいわれる吉野金峯山寺蔵王堂の菩薩を勧請し、蔵王権現が昭和47年に再建されています。

その仰ぎ見る蔵王山に開発の手が加えられたのは、今から約60年前の昭和34年からです。まず観光道路の工事を自衛隊がブルドーザーを使って進め、昭和38年に完成しました。翌39年には名古屋鉄道㈱の資本により蔵王山展望台ができ、観光地としてスタートしました。

昭和40・50年代、蔵王山を訪れる観光客は年間約15万人ほどでした。海水浴客が訪れる8月が最も多く、秋の行楽シーズンも観光客の呼び込みを図りました。「秋の蔵王山まつり」として催し物も行われました。「空中皿投げ大会」もそのひとつでした。また、ふもとには観光客用のみかん狩り園も開かれました。昭和49年11月には、皇太子ご夫妻がお立ち寄りになられ、三河港の整備状況などを視察されました。

展望台は完成から約30年たった平成5年に、老朽化に伴う建て替え工事を始め、翌6年に完成しました。この年開催の「わかしゃち国体」に合わせる意味もありました。展望台の営業は昼間だけでなく、夜の9時まで行いました。夜景の美しさが認められ、平成16年には「日本夜景100選」に選ばれています。

昭和36年6月の「田原広報」では、「蔵王に登れば眼下にひらける渥美湾の静けさ、ポッカリ浮かぶ神秘的な姫島、仁崎から大洲崎とつづく海岸線…」と山頂からの景色を述べ、平成6年4月の「広報たはら」では、「三河湾側を向くと、臨海部の埋立造成地をはじめ、リゾート開発中の白谷海岸…」とその変貌を表しています。

蔵王山はこの60年で、仰ぎ見る対象の山から、私たちがその山頂に足を置き、現在と将来の半島の姿を展望する所となりました。

（執筆委員・藤原喜郎）

●蔵王山頂にあった皿投げ場（昭和40年代）前方の的を目がけて投げる

●蔵王山展望台（昭和50年代後半）

今月の「表紙」

▼「もっと花の素晴らしさを感じてもらいたい」2月20・21日の両日に開催される「渥美半島　花の超祭典」は、花の生産者の皆さんの熱い想いから実現したイベントです。使用する花の数は驚きの1万6千本！趣向をこらした「百花繚乱」ならぬ「万花繚乱」の会場で、笑顔の花も咲かせましょう。（H）

【表紙の写真】渥美半島2月の花（ガーベラ）の花束

広報たはら Tahara
No.804 平成28年2月15日号
●編集・発行／田原市役所政策推進部広報秘書課
●電話／0531-22-1111（代表）
●Eメール／koho@city.tahara.aichi.jp

本誌は再生紙を使用しています。